学力向上通信　Vol. 66
「三重の学-Viva!!（まなびば）」
7月号

三重の学（まなびば）Viva!!

7
2022

発行者：三重県教育委員会
「学力向上緊急対策チーム」
連絡先：研修推進課
TEL：059-226-3572

※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

全国学力・学習状況調査問題を授業改善に活用しよう！

令和４年度全国学力・学習状況調査が実施されました。調査問題は、学習指導要領の理念・目標・内容等に基づき、学習指導上、特に重視される点や身に付けるべき力等を具体的に示すメッセージが盛り込まれています。これらの問題を授業改善に活用してください。

《特徴的な問題》

		問題番号	問題概要	特徴
小学校	国語	3二	【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章２】のよさを書く	文章に対する感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける問題（対話、振り返り）
	算数	4(１)	示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す	図形の意味や性質を基にしたプログラミングに関する問題（振り返り、プログラム）
	理科	1(５)	育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見いだして選ぶ	観察などで得た結果を、他者の気づきの視点で分析して解釈し、考えを問う問題（新たな問題の見いだし）
中学校	国語	2三	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える	先端技術の話題を取り上げた問題（対話、文書作成ソフト）
	数学	8(２)	目標の 300kg を達成するまでの日数を求める方法を説明する	日常的な事象を数学的に解釈し、説明する問題（SDGs の目標に対してできること）
	理科	1(２)	タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために、変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組合せを選択する	身に付けた知識と日常生活における経験を関連づけた問題（タブレット型端末のタッチパネル）

特徴的な問題　小学校国語3二　感想や意見を伝え合い、伝え合ったことを基に自分の文章のよさを書く

設問の趣旨

文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるかどうかをみる。

〔第５学年及び第６学年〕Ｂ　書くこと
カ　文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。

授業改善のポイント

○自分の文章のよいところを見付けるために、文章全体の構成や展開が明確になっているかなどの観点から、具体的に感想や意見を伝え合う。
○伝え合ったことを基に、自分の文章のよいところを振り返る学習活動を設定する。

3
島谷さんの学級では、「六年生としてがんばりたいこと」を書くことにしました。次は、島谷さんが最初に書いた【文章１】と書き直した【文章２】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

二　島谷さんは、川口さんと【文章２】を読み合い、感想を伝え合いました。次の【伝え合いの様子の一部】をよく読み、あとの問いに答えましょう。

【伝え合いの様子の一部】

島谷さん　私のがんばろうとしていることが伝わるかな。
川口さん　伝わってきたよ。それは、上級生が話してくれたことや、委員会で活動したことをもとにしているからだね。
島谷さん　それはよかった。他に気づいたことはあるかな。
川口さん　最後の段落がいいね。なぜかというと、最初の段落の内容をより具体的に書いているから、今年がんばろうとしていることがくわしく伝わってきたよ。
島谷さん　ありがとう。自分でもふり返ってみるね。次は、川口さんの文章を読んだ感想を伝えるね。
～（伝え合いが続く）～

（問い）　島谷さんは、川口さんと伝え合ったことをもとに、自分の文章のよさをふり返り、書くことにしました。**あなたが島谷さんなら、どのようなよさを書きますか。**次の条件に合わせて書きましょう。

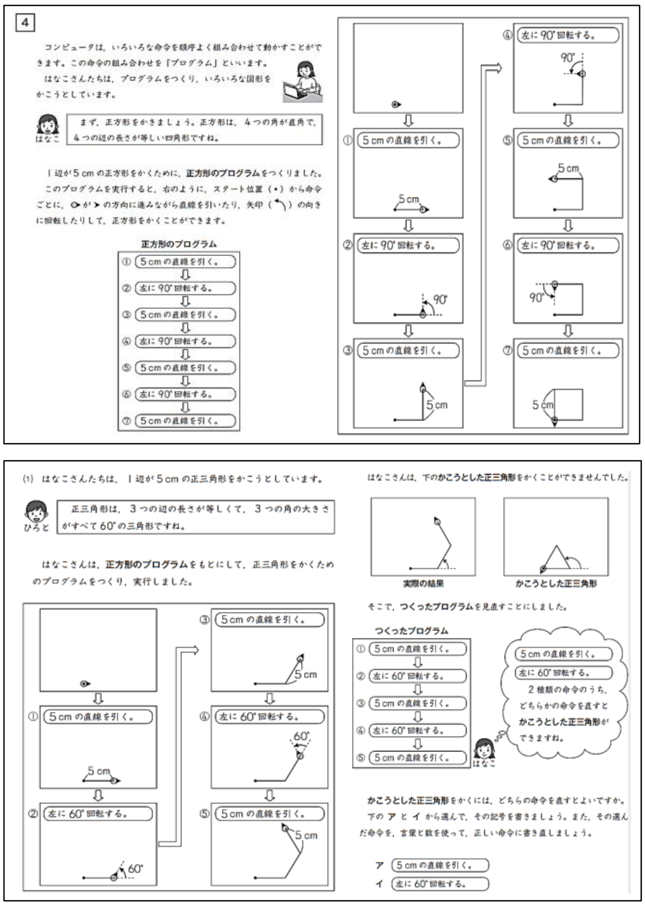
〈条件〉
○【文章２】のよさを書くこと。
○【文章２】から言葉や文を取り上げて書くこと。
○六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

【文章２】

わたしがこの一年間でがんばりたいことは、運動委員としてみんなのことを考えた新たな活動を進めることです。
そう考えたのは、五年生の時、美化委員長の南さんが卒業する前に話してくれた、活動への思いがすばらしいと思ったからです。南さんは、みんなにそうじ用具の正しい使い方を知ってほしいという思いをもち、正しく使うことができている学級の様子をアろくがして、各学級にしょうかいしたそうです。
この話を聞き、五年生の時にさいばい委員会で自分が行った活動をふり返りました。そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかったことをイはんせいしました。
わたしは今年、運動委員になりました。運動が苦手な人もウたのしむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしょうかいしたいです。

特徴的な問題

小学校算数４（１）　図形の意味や性質を基に図形の構成の仕方を考察する



設問の趣旨

正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できるかどうかをみる。

〔第３学年〕Ｂ　図形

(1) 図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 二等辺三角形、正三角形などについて知り、作図などを通してそれらの関係に次第に着目すること。

〔第４学年〕Ｂ　図形

(5) 角の大きさに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 角の大きさを回転の大きさとして捉えること。

イ　次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 図形の角の大きさに着目し、角の大きさを柔軟に表現したり、図形の考察に生かしたりすること。

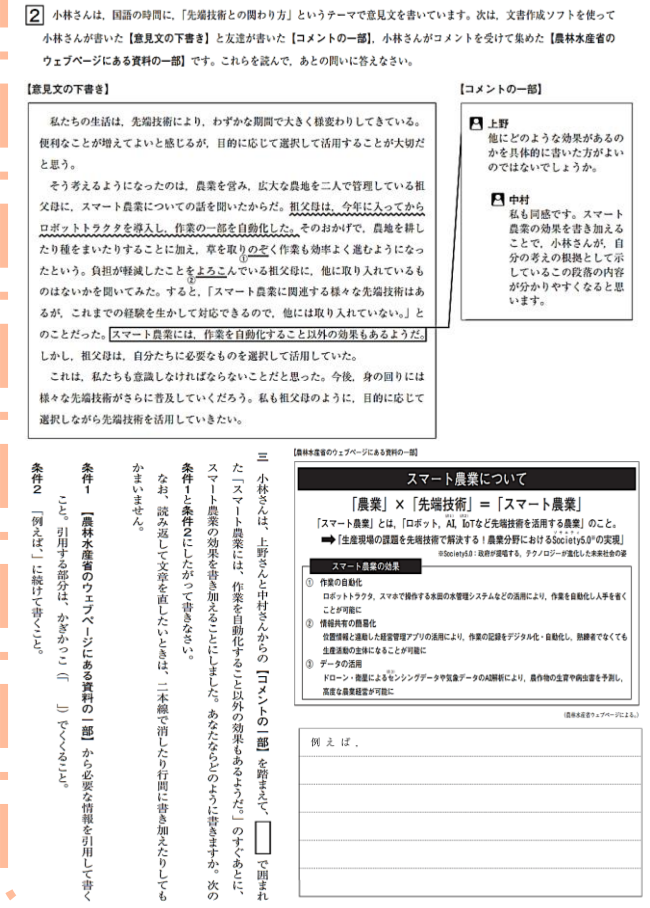
授業改善のポイント

○図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質を基に、作図の仕方を多様に考えさせる。

○辺の数や辺の長さ、角の大きさなどに着目して、図形の意味や性質を基に、作図の手順からどのような図形ができるかについて判断したり、作図の仕方を筋道を立てて説明したりする場面を設定する。

特徴的な問題

中学校国語２三　資料から引用して意見文を書く



設問の趣旨

自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる。

〔第１学年〕知識及び技能

(2) 情報の扱い方に関する事項

イ　比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。

〔第１学年〕Ｂ　書くこと

ウ　根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

授業改善のポイント

○意見文を書く活動において、自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にするよう指導する。

○根拠を明確にするために、まず自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認させる。

○その上で、自分の思いや考えを繰り返すだけではなく、根拠を文章の中に記述する必要があることを理解して書くように指導する。

○「根拠が書き手の考えを支えるものとなっているか」という視点で具体的な記述を取り上げて助言し合う場面を設定する。

○「引用」のルールや適切な分量について例文を基に確認する。

『指導と評価の一体化』のための学習評価

学習指導要領では、各教科等の目標及び内容が、育成を目指す資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」）に沿って整理され、各教科等でどのような資質・能力の育成を目指すのか明確に示されています。これにより、教師が「児童生徒にどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図る、いわゆる「指導と評価の一体化」を実現することが求められています。

«資質・能力の評価について（どのように行うか）»

「学びに向かう力・人間性等」の中で、観点別学習状況の評価を通じてみとることができる部分

知識・技能
- 事実的な知識の習得
- 知識の概念的な理解

（ペーパーテストなど）

- 児童生徒の文章による説明
- 観察・実験
- 式やグラフでの表現等

※　実際に知識や技能を用いる場面を設ける等、多様な方法を適切に取り入れていく。

思考・判断・表現
- 思考力、判断力、表現力を問う問題(ペーパーテストなど)
- 論述やレポートの作成
- 発表、グループでの話合い
- 作品の制作や表現等　多種な活動
- ポートフォリオの活用等

※　指導者側が、児童生徒が思考・判断・表現する場面を効果的に設計した上で、指導・評価する必要がある。

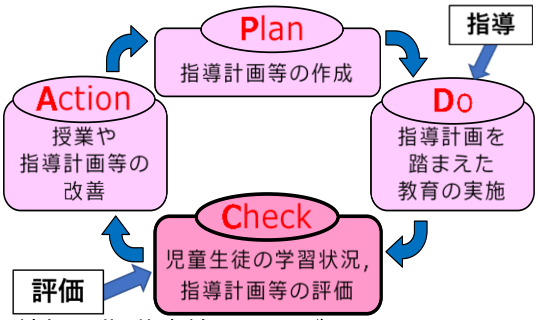
主体的に学習に取り組む態度
- レポート等における記述
- 授業中の発言
- 教師による行動観察
- 児童生徒による自己評価や相互評価等の状況

※　粘り強い取組を行おうとしている側面と、粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面の２つの側面を評価する。

「『学びに向かう力・人間性等』のうち『感性や思いやり』など児童生徒一人ひとりのよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価し児童生徒に伝えることが重要である」と示されています。

«学習評価の改善の基本的な方向性»

① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと



◎学期ごとや年度ごとの評価を行うだけでなく、内容のまとまりごとの評価規準に基づき、指導計画の作成、実践、評価、授業改善を行うことで、児童生徒の学習改善や教師の指導改善につながっていきます。その中で、これまで行ってきた学習評価のあり方を、学校内で再度検討し、見直しを行っていく必要があります。

そのためには、各教科等の内容のまとまりごとの評価規準を作成していく必要があります。

◇本稿は、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」を参考に作成しました。
各教科等の評価規準の作成方法、観点別学習状況の評価に係る記録の総括の方法、評定への総括の方法などの詳細はこちらで確認を。　⇒　http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html

◇独立行政法人教職員支援機構のオンライン講座で「新学習指導要領に対応した学習評価」の動画も公開されています。　⇒　https://www.nits.go.jp/materials/youryou/033.html

«カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価»

「学習指導」と「学習評価」は学校の教育活動の根幹であり、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っています。新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休業からの学校再開後に、教育活動や時間の配分等の再検討、学校の授業における学習活動の重点化、地域や家庭の協力等「カリキュラム・マネジメント」の重要性が改めて明らかとなりました。

児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握した上で教育課程を編成・実施し、学習評価を行い、学習評価を基に教育課程の改善・充実を図るという PDCA サイクルを確立することが重要です。

市町教育支援・人事監からのメッセージ

「ライフ」の充実で豊かなアイデアを

市町教育支援・人事監　　蒸野　孝文

○●．お元気ですか、みなさんの「ライフ」．●○

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の概念は、1980 年代後半にアメリカで生まれたそうです。日本においては、2007 年に内閣府において「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」が策定され、行動指針も作られました。その後「ワーク・ライフ・バランス」には、自分の意志で仕事と生活を主体的にコントロールするという「ワーク・ライフ・マネジメント」という考え方が加わりました。さらに県では今年からライフを前に持ってきて「ライフ・ワーク・マネジメント」として、職員のさらなる意識向上に努めています。

そこでみなさんにお聞きしたいのですが、みなさんの「ライフ」はお元気ですか。授業の準備、子どもの支援、保護者対応、様々な会議に調査などなど…。日々の業務に向き合う中で、ライフに元気を与えるゆとりが持てないという方もみえるのではないでしょうか。また、時間外勤務の上限も設けられましたが、ライフとワークの間で身動きが取りにくくなっているという声も聞こえてきます。そのような状況の中では、クリエイティブなアイデアは生まれないだけではなく、成果が上がらないことに焦り、さらにワークを重ねた結果、ワークもライフも共倒れになるという悪循環に陥る可能性もあります。

○●．ワークのゆとりとライフのゆとり．●○

では、どうすればこの状況を変えていけるのでしょうか。キーワードは、ワークの「整理」と「組織で対応」だと思います。

教員の仕事は実に多岐に渡ります。そして計画的に進める仕事と臨機応変に対応する仕事を、常に同時並行で行っています。いつでも予定通りに仕事を進められるわけではないからこそ、例えば「いつまでにしなければならない仕事なのか」や、「自分だけで進められる仕事なのか」などの軸で日頃からワークの整理をしていくことが必要になるのだと思います。軽重をつけたり選択したりして整理することで、ワークに時間的な余裕が生まれます。

また、学校は一つのチームとして仕事をするところです。一人で抱え込まず周りの教員や管理職と協働的に「組織で対応」することでワークに心理的な余裕が生まれます。

教員生活を充実したものとするためには、心身の健康を保つことが重要です。ワークのゆとりがライフのゆとりへとつながります。そして趣味でもなんでも、今までためらっていた一歩を踏み出すことができれば、ライフの質は高まります。その結果、今まで気付かなかったワークの新しいアイデアを手に入れることができたなら、これこそがライフとワークがともに高まっていく絶妙なバランスとなっていくはずです。教員のみなさんが輝いてこそ、子どもたちも輝きます。

ちなみに私は今年度から単身赴任をすることになり、それをきっかけに、これまでほとんどしたことがなかった料理にチャレンジすることにしました。そのお供にしているのが、前任校の給食レシピ集です。私のような初心者にはぴったりの神レシピです。そしてあらためて気付きました。今まで当たり前のように食べていた給食が、いかに栄養満点で、いかに美味しく、いかに安全に作られていたかを。ポークビーンズをポークとビーンズで作ろうとした私には、ジャガイモも人参もトマトも玉ねぎもベーコンまで入っていたことは衝撃でした。そして、もしまた現場に戻る時が来たら、この感謝の気持ちをぜひ子どもたちにも感じてもらえるように努めなきゃと感じています。恥ずかしながら一歩を踏み出さなければ気付けなかったことです。

ぜひみなさんのライフが少しでも元気になって、新たな発見と喜びが私たちのワークである「子どもの学力向上」につながる実践力の源となるようにと願っています。そのために自分の立場でどんなお手伝いができるか、真剣に考えていきたいと思います。